

は　じ　め　に

第46回（令和7年度）北海道麦作共励会の開催にあたって、関係各位の皆様には絶大なるご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年の第1回審査委員会（委員長：北海道農業研究センター 保田 浩 寒地野菜水田作研究領域長）を8月8日に開催し、開催要領、審査基準、推薦調書について検討を行い、本年の北海道麦作共励会の取り組みを決定いたしました。その後、審査委員会の決定を踏まえ、各地区協会に開催案内を行い、関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

令和7年の全道の小麦生産実績は、小麦全体の作付面積は133,700haと前年並、収穫量は664,800トンで前年並（前年比93%）となりました。登熟期間の高温、少雨により細麦傾向になったことが要因となっています。しかし、全道を見ると前年を上回る収量となった地域もあり、地域間差が大きい年でありました。

秋播小麦の全道平均収量は530kg/10aで前年比93%、品質は1等麦比率90.4%、品質ランク区分もほぼAランクとなりました。春播小麦の全道平均収量は、288kg/10aで前年比75%、品質は1等麦比率63.3%、品質ランク区分もほぼAランクとなりました。

麦作共励会へは、全道の関係者の協力で、個人の部 秋播小麦第1部（小麦面積20ha以上）1点、秋播小麦第2部（小麦面積20ha未満）1点、団体の部 春播小麦1点の合計3点に出展がありました。

11月6日に第2回審査委員会を開催し、審査及び各賞の選考を行い、11月14、21、25日の現地調査により、正式に各賞を決定しました。

本報告書は、各部門の最優秀受賞者の麦づくりと経営概要をまとめたものです。作成に当たって、保田審査委員長に審査報告をお願いするとともに、関係地区のJA担当者、農業改良普及センターの皆さんに各受賞者の概要をまとめていただきました。

本報告書が全道の皆さんの麦づくりや経営改善の一助になることを願っております。

最後になりますが、本年の北海道麦作共励会の実施にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様に対しまして、あらためて心からお礼申し上げます。

令和8年2月

一般社団法人 北海道農産協会

目 次

1. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会実施要領	1
2. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会審査基準	3
3. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会審査委員名簿	4
4. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会審査報告	5
5. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会表彰者名簿	8
6. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会	
個人の部 秋播小麦 第1部 最優秀賞者の経営概要	11
個人の部 秋播小麦 第2部 最優秀賞者の経営概要	20
7. 第46回（令和7年度）北海道麦作共励会	
集団の部 春播小麦 最優秀賞受賞者の経営概要	25

第46回（令和7年度）北海道麦作共励会実施要領

1. 趣 旨

麦の生産改善を図るためには、麦作農家の良質麦生産意欲の高揚と生産技術及び品質向上、経営の改善を推進することが重要である。このため、北海道麦作共励会を開催し、生産技術あるいは経営改善の面から創意、工夫を持ち先進的で他の範となる麦作農家及び麦作集団を表彰し、その業績を広く紹介するものとする。

2. 主催団体

主 催 一般社団法人 北海道農産協会

後 援 北海道、北海道農業協同組合中央会

ホクレン農業協同組合連合会、北海道製粉連絡協議会、北海道農産物集荷協同組合

3. 対象地域

一般社団法人北海道農産協会会員の地区協会9地区を対象とする。

4. 部 門

共励会は個人および集団別に以下の部門毎に行う。

- (1) 個人の部
 - ①秋播小麦 第1部（20ha以上）
 - ②秋播小麦 第2部（2ha～20ha未満）
 - ③春播小麦
- (2) 集団の部
 - ①秋播小麦
 - ②春播小麦

5. 参加資格

(1) 個 人

次の要件を満たす農家であること。

- 1) 当該年産を含む、3カ年の平均作付面積が概ね2ha以上であること。
ただし、秋播小麦〔第1部〕にあつては、当該年産を含む、3カ年の平均作付面積が概ね20ha以上であること。
- 2) 当該年産小麦の10a当たり収量が当該市町村の平均収量以上であること。
- 3) 省力的な麦作を行っており、品質もすぐれ麦生産技術の向上が顕著であること。
- 4) 作付品種が北海道の優良品種であること。

(2) 集 団

次の要件を満たす集団であること。

- 1) 生計を異にする概ね5戸以上で、栽培技術の取り組みが一致性を有し、圃場管理技術の実施等においても、省力化や品質向上面で共同して効率化を図っている集団であること。
該当する農業法人も含むものとする。
- 2) 当該年産を含む、3カ年の平均作付面積が概ね20ha以上であること。
ただし、春播小麦については概ね10ha以上とする。
- 3) 当該年産小麦の10a当たり収量が当該市町村の平均収量以上であること。

- 4) 省力的な麦作を行っており、品質もすぐれ麦生産技術の向上が顕著であること。
- 5) 作付品種が北海道の優良品種であること。

6. 参加手続と全国麦作共励会への推薦等

- (1) 北海道共励会への参加推薦者は、生産地のJA組合長を基本とする。
- (2) 北海道共励会への参加推薦調書は、原則として、市町村米麦改良協会もしくはJA等が地区米麦改良協会を通じて一般社団法人北海道農産協会へ提出する（推薦調書様式は別に定める）。
- (3) 北海道共励会において各賞選考のうえ、各部1位の中から個人・集団1点を、参加資格基準に基づき全国麦作共励会へ推薦する。

*全国麦作共励会参加基準

(個人)

当該年産麦の作付面積が、2ha以上であること。

(集団)

当該年産麦の作付面積が、10ha以上であること。

- (4) 北海道共励会において、原則として過去3カ年以内に最優秀賞を授与されたことがない個人・集団を参加対象とする。
- (5) 推薦調書にある個人情報の取扱いについては、当該生産者（集団にあっては集団の長）の承諾を得て取り進める（承諾書様式は別に定める）。

7. 審 査

審査は、別に定める審査基準により行うものとする。

なお、品質評価として、蛋白、灰分、容積重、FNの4項目の分析を行う。

8. 審査委員会

この共励会に審査委員会を設け審査にあたる。

審査委員は、関係機関・団体の長が推薦する適職に、主催団体である一般社団法人北海道農産協会が就任を依頼し、本人の了解を得て承認する。

審査委員長は、審査委員会で互選することを基本とする。

9. 表 彰

- (1) 審査の結果、その成績が優良と認めたものを表彰する。
- (2) 表彰区分は、審査の内容を踏まえて審査委員会が定める。
ただし、最優秀賞を授与する場合は各部門毎（個人・集団毎）に1点のみとする。
- (3) 受賞者には、賞状ならびに記念品を贈呈する。
- (4) 委員長が必要と認めたときは、北海道知事の表彰下付を申請するものとする。

10. そ の 他

- (1) 個人情報については、一般社団法人北海道農産協会が定める「個人情報保護基本方針」に基づき取り扱う。
- (2) この要領に定めていない事項については、必要の都度委員長が別に定める。

第46回（令和7年度）北海道麦作共励会審査基準

1. 北海道麦作共励会の審査は、この基準に定めるところによる。
2. 審査は、推薦調書を主体として厳正に行うものとする。
特に優秀なものについては、その成績を収めた経営と技術要因につき、審査委員の代表により現地審査を行うものとする。
3. 審査対象は個人および集団別に下記の区分毎とする。
(1) 個人の部 ① 秋播小麦〔第1部〕(20ha以上) (2) 集団の部 ① 秋播小麦
② 秋播小麦〔第2部〕(2ha～20ha未満) ② 春播小麦
③ 春播小麦
4. 審査項目毎の配点は次のとおりとする。

(1) 収量要素 (10a 当たり収量)	30点
〔内 訳〕	
1) 令和7年産 全道10a 当たり平均収量対比配点 (秋・春別)	(5点)
2) 市町村10a 当たり5カ年平均収量との対比 過去(平成30年～令和6年産) 7年中豊凶年を除く5カ年平均収量対比配点 (秋、春各々の平均収量対比)	(15点)
3) 市町村10a 当たり2カ年平均収量との対比 過去(令和5年・令和6年産) 2カ年平均収量対比配点 (秋、春各々の平均収量対比)	(10点)
なお、集団が市町村全体の大きい規模の場合、比較は隣接する市町村の平均収量とする。	
(2) 品質要素の配点	30点
1) 検査等級	(15点)
秋播小麦：当年を含む過去3年の上位等級(1等+2等)数量に対する1等比率	
春播小麦：当年を含む過去3年の総収量に対する1等+2等(上位等級)比率	
なお、当年産に重みをつけた配点とする(具体的数字は配点基準内規による)。	
2) 品質評価	(15点)
(3) 技術要素の配点	20点
〔内 訳〕	
輪作体系、排水対策、有機物施用、土改資材と融雪材の施用、施肥法、播種法、 雑草対策、病虫害防除(雪腐病防除を含む)、農業機械利用、収穫・乾燥・調製	
(10項目×2点)	
(4) 技術の特色・経営の特色・その他特記事項要素の配点	20点
〔内 訳〕	
技術上の工夫、品質改善の努力、規模拡大・省力低コストの努力、 経営上の特色、地域での役割と波及効果	
(5項目×4点)	
(5) 委員会の裁量点	10点
(6) 合 計	110点
5. 順位・表彰区分は、各項目の合計点によるものとし、審査委員会において決定する。
6. その他必要な事項については、審査委員会においてその都度決定する。

第46回（令和7年度）北海道麦作共励会審査委員会名簿

	所 属 名	役 職 名	氏 名
委員長	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター	寒地野菜水田作 研究領域領域長	保 田 浩
委 員	北海道農政部生産振興局	技術普及課 上席普及指導員 (北見農試駐在)	中 村 浩
委 員	北海道農政部生産振興局	技術普及課 主査(普及指導)	石 川 弘 大
委 員	北海道農政部生産振興局	技術普及課 主任普及指導員 (十勝農試駐在)	斉 藤 克 史
委 員	北海道農政部生産振興局	技術普及課 主査(地域支援) (農研本部駐在)	八 木 登喜子
委 員	北海道製粉連絡協議会	事 務 局 長	永 野 賢 幸
委 員	北海道農産物集荷協同組合	業務部部長兼畑作課課長	石 井 学
委 員	北海道農業協同組合中央会	米 穀 農 産 課 課 長	沖 崎 慎
委 員	ホクレン農業協同組合連合会	麦 類 課 課 長	吉 原 孝 昭

第46回（令和7年度）北海道麦作共励会審査報告

第46回（令和7年度）の北海道麦作共励会の審査結果の概要について、審査員を代表して報告申し上げます。

令和7年産の全道の小麦生産面積は133,700haと前年並、収穫量は664,800トンで前年比93%（7中5年平年比95%）となりました。その要因は、夏季の高温と少雨により細麦傾向となったためです。しかし、平年を上回る収量となった地域も見られ、地域間差の大きい年となりました。

秋まき小麦の全道平均収量は前年よりやや低い530kg/10a（前年比93%）、品質は1等麦比率90.4%、品質ランク区分は、ほぼAランクとなりました。春まき小麦の全道平均収量は、前年比75%の288kg/10a、品質は1等麦比率63.3%、品質ランク区分は、ほぼAランクとなりました。

次に、今年度の北海道麦作共励会の審査経過について申し上げます。第1回審査委員会を昨年8月8日に開催、その後、各関係機関・団体に後援依頼するとともに、全道各地に麦作共励会への参加推薦調書の提出推進活動を行いました。

その結果、「個人の部 秋播小麦第1部」1点、「個人の部 秋播小麦第2部」1点、「集团の部 春播小麦」1点の合計3点の推薦をいただきました。

11月6日、第2回審査委員会を開催、審査及び各賞の選考を行い、11月14、21、25日の現地調査により、正式に各賞を決定させていただきました。以下、各賞受賞者と受賞者の麦づくりの概要について紹介させていただきます。

【個人の部 秋播小麦第1部 最優秀賞】 上士幌町 泉田 和昭氏

泉田氏は、秋播小麦21ha、大豆11ha、小豆3ha、てんさい8ha、馬鈴薯11haの合計54haで畑作専業経営に取り組まれています。輪作体系は、「秋播小麦－豆類－てんさい－ばれいしょ」で、4～5年輪作となっています。

ほ場は、透排水性が悪いため、全ほ場に暗渠および明渠を施工し、小麦の播種前には心土破碎を実施しています。

土作りでは、土壤診断結果に基づき土壌pHの矯正などを進めるとともに、5年毎のてん菜作付前に豚ふん堆肥1t/10aとメタン発酵消化液5t/10aを施用しています。また、小麦収穫後は、緑肥（えん麦野生種）を栽培しています。

泉田氏は、「小麦の収量は整地とは種精度で8割決まる」と考えており、ほ場の碎土が適切になるよう、パワーハローとロータリーをセットで施工しています。また、整地後に鎮圧を必ず行い、播種床を安定させ、播種深度のバラツキを低減しています。更に耕起から播種まで、できるだけ1日で完了できるように作業計画を立てて管理されています。

播種時期、播種量は、越冬前に過繁茂とならないよう、有効積算気温に応じた調整を行っています。

施肥管理では、ほ場毎に基肥量を調整し、起生期以降は、茎数・葉色値に基づき追肥しています。特に、幼穂形成期から登熟中盤にかけて、硝酸カルシウムの葉面散布を行い、根からの養分吸収が低下する干ばつ条件でも、茎葉から養分供給できるようにしています。

小麦等各作物の栽培管理にあたっては、GNSS自動操舵補助システムを利用し、正確で効率的に作業を進めています。また、収穫にあたっては、十勝地域組合員総合支援システム（TAFシステム）の衛星画像、農協の実施する穂水分調査結果と現地ほ場観察を併用しながら適期収穫に努めています。

これらの取り組みにより、「きたほなみ」の10aあたり収量は700kgで上士幌町平均対比123%、出荷数量に対する1等麦割合100%、品質もAランクと素晴らしい実績を上げられていることから、「個人の部、秋播小麦第1部 最優秀賞」とさせていただきました。

【個人の部 秋播小麦第2部 最優秀賞】 留寿都村 吉川 尚亨氏

吉川氏は、経営面積35.6haで、野菜畑作の複合経営に取り組んでいます。輪作体系は、「秋播小麦－大根－人参－黒大豆－ばれいしょ」で、秋播小麦、大根、人参が各約4ha、黒大豆、ば

れいしょは各約8ha栽培されています。

令和7年の小麦収量は10aあたり751kgで、留寿都町平均収量の1.5倍と多収を実現しています。

技術の特徴として、排水対策では、ばれいしょ収穫後、枕地など機械踏圧が激しい部分にサブソイラー、スタブルカルチを施行しています。

有機物や土壌改良資材は、大根、人参などの作付前に、10aあたり約2tの堆肥と石灰資材100kgを施用し土作りを行っています。また、融雪材には、乾燥とん糞を10aあたり約180kg散布しています。

播種にあたっては、播種床作りに重点を置き、播種予定の1週間ほど前に浅目にロータリーをかけ、土壌粒度を調整し土壌と種子の密着度の向上をはかっています。

施肥は、ロータリー耕後にライムソワーで全層施肥し、パワーハローで土壌混和、その後軽く鎮圧を行い、播種時のタイヤの沈み込みやほ場の凹凸による播種むらの軽減を図っています。

播種時期は、近年の高温傾向から9月下旬播きを心がけ、播種量は10a当たり6kg程度にし、過繁茂とならないようにしています。播種及び収穫作業はJAに委託して、これらの機械経費を抑えています。

病虫害防除にあつては、ほ場観察に基づき適期防除に取り組まれ、病害による品質低下を防いでいます。

以上のように、多雪地帯で土づくり、長期輪作体系、丁寧な播種床づくりにより、小麦の安定多収を実現されていることを高く評価し、「個人の部 秋播小麦 第2部 最優秀賞」とさせていただきました。

【集団の部 春播小麦 最優秀賞】

江別市 江別市畑作生産部会 部会長 片岡 貴弘氏

江別市畑作生産部会は構成員153戸、耕作面積は3,810haで、水稻、畑作、野菜の複合経営に取り組まれています。

部会では、1985年に誕生した製パン用・製麺用として評価の高い「ハルユタカ」の安定生産実現のため、江別市畑作振興会（現 江別市畑作生産部会）と関係機関が連携し、平成8年頃から初冬まき栽培に取り組まれています。

初冬まき栽培は、根雪前の播種は積雪との関係でタイミングが難しく、播種が早すぎると越冬率の低下を招くなど困難を極めました。試行錯誤の結果、技術的な工夫により、道内有数の「ハルユタカ」の産地となっています。

地域の輪作体系は、大豆、ブロッコリー、てん菜に加え、スイートコーン、子実用とうもろこし等を組み入れた4年以上の輪作体系となっています。また、一部、水稻を組み入れた田畑輪換も行われています。

土づくりでは、牛ふん堆肥の施用や輪作体系の中で、てん菜、ブロッコリーなどの収穫残渣のすき込みに加え、麦後作緑肥の栽培により、地力向上に取り組まれています。

初冬まき栽培の播種にあたっては、碎土が細かすぎると越冬後の土壌の固結につながり発芽不良を招くため、耕起・整地は「あえて粗く」行われています。また、砂質系土壌等では越冬率が劣るため、作付けを避けています。

病虫害対策では、ほ場観察に基づく適期防除が行われています。

収穫は、慣行の春まき栽培より成熟期が1週間程度早くなるため、適期収穫に向け計画的に収穫・乾燥を行い、高品質安定小麦生産につなげています。

また、「ハルユタカ」を地域ブランドとして確立させ、地域を盛り上げることを目指した産官学連携組織「江別麦の会」が1998年8月に発足し、栽培から商品化までを地域をあげてのブランド化が進められ、最近では「ハルユタカ＝江別」と認知されるようになっています。

「江別麦の会」の活動を通じて、「ハルユタカ」による「江別小麦めん」を開発し地元飲食店などでのメニュー化、更には学校給食への採用、「江別小麦めん」を使用したラーメンの全国テレビで紹介されるなど地域活性化が進められてきました。

江別市畑作生産部会では、令和7年、「ハルユタカ40周年事業」として実需者交流会を開催し、「ハルユタカ」を使用しているラーメン店など、全国の飲食店等が集まり情報交換もおこなわれ

ています。

江別市畑作生産部会は、「ハルユタカ」の安定生産を実現するため、初冬まき栽培技術の確立、良質小麦安定生産を実現していること、更には、実需者との積極的な交流と地域活性化に取り組まれ、40年にわたり、「ハルユタカ」の生産を維持していることなどを高く評価させていただき、「集団の部 春播小麦 最優秀賞」とさせていただきました。

今回、受賞された皆さんは、地域の仲間と連携しながら、地域農業を力強く牽引していく存在となっています。これまでのご努力に敬意を表するとともに、この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。

最後に本年度の麦作共励会に関係された皆さんにお礼申し上げるとともに、今後も北海道の麦作振興に尽力されることを祈念し、審査報告とさせていただきます。

【審査委員長】

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター

寒地野菜水田作研究領域長 保田 浩

第46回（令和7年度）北海道麦作共励会 受賞者

※敬称略

【個人の部 秋播小麦 〔第1部〕】

表 彰 名	氏 名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最 優 秀 賞	泉 田 和 昭	上士幌町	JA上士幌町

【個人の部 秋播小麦 〔第2部〕】

表 彰 名	氏 名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最 優 秀 賞	吉 川 尚 亨	留寿都村	JAようてい

【個人の部 春播小麦】

表 彰 名	集 団 名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最 優 秀 賞	江別市畑作生産部会 部会長 片岡 貴弘	江別市	JA道央

【個人の部 春播小麦】【集団の部 秋播小麦】

【出展なし】

【全国麦作共励会への推薦】

「農家の部」 上士幌町 泉田 和昭 氏

「集団の部」 江別市畑作生産部会 部会長 片岡 貴弘 氏

【全国麦作共励会 審査結果】

「農家の部」 全国農業協同組合中央会会長賞 上士幌町 泉田 和昭 氏

「集団の部」 農林水産大臣賞 江別市畑作生産部会 部会長 片岡 貴弘 氏